

デバイスの枠を超え情報の所有を実現する Timeline サービス

- ユーザーの時間軸をキーとした情報管理・活用システムの開発 -

1. 背景

「どこかで見たけれど、詳細は覚えていない」

そのような情報・知識が我々の身の回りにはあふれている。

飲食店のグルメ情報や観光案内、様々な書籍や学問上の知識、ニュース、企業の持つ社内情報...、メディアやネットワーク、コミュニケーションから供給される情報はとどまることがなく増加を続け、人間の記憶力や行動には限界があり、情報はただ我々の中を通り抜け、流れ去っていく。

しかし、そのような情報の中には、「これは覚えておきたい、これはきっと役に立つ」という知識が少なからずあり、そして、これらを受け止めておき活用することは容易ではない。

我々に用意されている手段は、Web ブラウザのブックマーク(お気に入り)、メールや blog などへ書き写し、テレビ番組の録画といった程度であり、どれも能動的な行動を必要とし、使い勝手は必ずしも良くない。実体としては、必要に応じて改めて検索したり、よりアナクロに印刷して残しているのが現実である。

高度な検索性や可用性、劣化せず自在に扱えるデジタルデータの特徴はどこに行ったのだろうか？ それどころか、デジタルコンテンツはデバイス間での相互利用もろくに出来ず、紙メディアより保存性が悪く、なんらかの形で機器が失われたり、機器の世代交代が進めばあっけなく消えてしまう儚い存在でしかない。

なぜこのようなことになったのか？ これを解決し、自らの持つ情報を継続して所有し、自在に取り出すことが可能な環境が必要とされているのではないだろうか？

2. 目的

当プロジェクトにより開発される Timeline サービスは、現在のネットワークとテクノロジー、デバイス、デジタルコンテンツを柔軟な形で繋ぎ合わせ、操作方法や利用環境を意識せず、利用者の時間軸を基本とし知識を保存・活用するためのプラットフォームを構築し、デジタルな「情報の所有」が可能となる環境を構築することを目的とする。

3. 開発の内容

本プロジェクトの成果として「MyTimeline.jp」サービスを開発した。

現時点で、このサービスは Web ブラウザ Internet Explorer 及び Firefox の動作する Windows 搭載パーソナルコンピューター(以下 PC)と i-mode(DoCoMo)及び ezWeb(au)の利用可能な携帯電話を主な動作環境とし、PC においてブラウズした Web サイトの情報をブラウザプラグインで収集、サーバーへ蓄積し、これを携帯電話、PC を始めとした多様な機器で閲覧・活用することを実現している。



「ただ Web ブラウズするだけで蓄積されていく知識と情報」-----
携帯電話の着信履歴の機能をイメージしていただきたい、そこには、着信した通話相手の名前や電話番号が利用者の使用した順に並んでいるだけであり、そのリストから選択するだけでその通話相手に再度接続し通話を行うことができる。非常に直感的かつ利便性に優れたユーザーインターフェイスである。

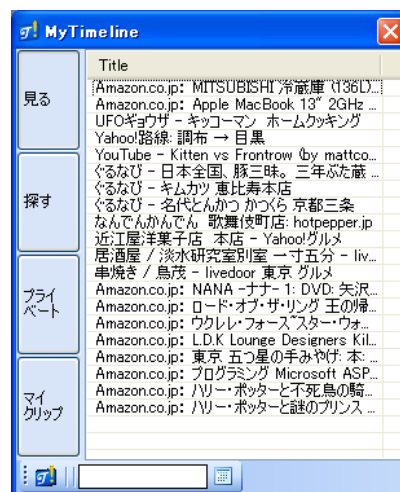
MyTimeline.jp サービスは、この感覚を Web ブラウジングに導入する。

利用者が様々な Web サイトで閲覧した情報を自動抽出し、タイトルを付け、利用者の時系列に並べたリスト (Timeline)を自動的に作成していく。

この利用者の Timeline は、

- グルメサイトで参照した店舗名
- オンライン通販やクチコミサイトの商品名
- レシピサイトの料理名
- 乗り換え検索サイトで検索した経路名

などを初めとする多彩な情報を「自分が閲覧した順」で一括管理することができる。



-----「閲覧するデバイスを意識することなく情報を引き出す」
そして、利用者はそのリストから選択するだけで、それらの情報を再度閲覧することができるのである。

このリストは、PC や携帯電話、PDA など様々なデバイスから閲覧可能であり、それをどのようなデバイス・環境で閲覧したか、参照しようとしているかを意識せずどのデバイスからでも情報を取り出すことができる。

「この辺で知ってるお店があったはずだけど」-----
利用者の Timeline には、タイトルだけでなく様々なメタデータが付随して記録される。店舗

の緯度経度や製品の説明文などの情報が同時に蓄積されていく。

これにより、利用者が GPS 対応携帯電話の位置情報などを利用して、情報を絞り込み、「今自分が必要としている情報」を自らの知識群の中から自在に取り出すことが可能となる。

また、これらのメタデータを元に様々なサービスを連携させて利用することも実現する。例えば、グルメサイトの店舗情報に付属する位置情報を元に携帯電話の歩行者ナビゲーションアプリの起動や、乗り換え情報検索の目的地を地域検索の候補とする、などの機能を実験的に実装している。

4. 従来の技術(または機能)との相違

Timeline サービスのキーポイントは、情報の管理を既存の Web ブラウズの要である URL から分離し、「どのような情報を参照したか?」を意味するイベントタグとして、利用者の時間軸に基づいたデータ管理を行う点にある。

イベントタグそのものはユニークな識別情報であり、リレーショナルデータベースで言うところのプライマリーキー(データベース主キー)にあたる存在であると考えるとよいだろう。

イベントタグの集合体である利用者の Timeline に対し様々なメタデータを結びつけ、情報を取り出す際には、このイベントタグと表示形式をサービスに要求することで、あらためて、状況に最適な閲覧用の URL を取得する。

保存先や保存形式に依存する URL を切り離すことで、デバイス依存性の排除はもちろん、多彩な情報の一括管理や、サービスの連携を実現することが可能となる。

一方で、利用者はこのようなプロセスを意識することなく、記録されたリストを一覧し、選択するだけというシンプルなユーザーインターフェイスで利用可能なのである。

5. 期待される効果

Timeline サービスは、様々な情報を、デバイスやサービスに依存することなく一括管理・連携させることを可能とする。

また、一覧からの選択や、日時・位置情報など状況による絞込みによる情報活用というシンプルな操作体系は、携帯機器はもちろんカーナビゲーションや情報家電など、これまでにある程度以上のキラアプリケーションを見つけることができなかった機器を、利用者とネットワークに結びつけることを可能とするポテンシャルがあると言えるだろう。

6. 普及(または活用)の見通し

ここまで述べてきたように、非常に汎用性が高く、しかも特定のサービス・デバイスに依存することなく利用者を主体としてサービスを展開できる点が Timeline サービスの特徴である。

例えば、カーナビゲーションのような特定用途向けのデバイスで Timeline サービスを利用

可能とすれば、専用のコンテンツを用意することなく、膨大なインターネット上の既存のサービス・コンテンツと結びつけることが可能となるであろう。

この他にも、利用者の「情報の所有」という観点に基づいたコンテンツ販売、利用者間での様々な情報の受け渡し手段の可能性など、潜在的な可能性は非常に広いサービスである。

現時点での MyTimeline.jp はそのような可能性のごく一部を実現したのみであり、人々が情報を所有し、デジタルな情報の価値をこれまでに無く高めていくことを目指すサービスとして開発を続けたいと考えている。

7. 開発者名(所属)

中島 薫 (Timeline Networks[個人事業])

(参考)開発者URL

Timeline Networks

<http://www.timelinenetworks.com/>

MyTimeline.jp

<http://mytimeline.jp/>